

「次はきみの番だから」

県立神戸高等学校長
新谷 浩一

○ 校長室の3本のタオル



3月の終わりにはじめて校長室に入ったとき、少し違和感があったのです。前の校長先生によって、仲良く壁に飾られていた3本のタオル。アンティークな造りの校長室のなか、そこだけが近代的に見えたのです。しかし、毎年、PTAに作っていただいているもので、教職員と生徒が一体となって兵庫高校との定期戦で応援するためのアイテムとお聞きすると、得心がいきました。大切な絆の象徴なのですね。



3色は神戸高校、前身の神戸一中、県一高女のスクールカラーで、配布する色を毎年変えるため、3年間で在籍すると3色が揃うともお聞きしました。しかし、創立記念式典の際、いただいたタオルはこれまでの3色とは明らかに違います。「本来、神戸一中のスクールカラーはこのカーキ色なんだそうです」と澤田先生が教えてくれます。あまりに渋くて、あまりにいい色でしたので私は早速、当日校内におられたPTAコーラス部の方にお礼をお伝えに行きました。

○ 新品タオルとともに、いよいよ春の定期戦です

いざ、定期戦。出場するのは男女のソフトテニス部、男女のバレーボール部、サッカー部、そして野球部。その前日の朝。自治会長と総務委員長が満面の笑みで校長室を訪れてくれました。中心となり、あれだけの文化祭を成し遂げたんですものね。達成感は相当なものですよね。「いい文化祭をありがとう」と私は言いました。心からのお礼です。すると2人からは「壮行会でご挨拶を…」と新たな依頼。そこで、こんな話をしました。

おはようございます。明日はいよいよ春季定期戦ですね。兵庫高校との定期戦は、大正2年、1913年に始まったといいますから、今から約110年前のことです。

ちなみに当初は兄弟校と言われる一中と二中の野球定期戦として年1回、春に行われるようになったのが始まりだそうです。その後、5月に野球、12月にラグビーの対抗戦が実施されるようになり、昭和42年から今のように入種目を拡大して開催することになりました。

では、なぜ神戸と兵庫は兄弟校と言われるのか。①神戸一中の12年後に誕生したのが神戸二中 ②神戸二中の初代校長は神戸一中の初代校長が兼務 ③最初の入試は神戸一中と神戸二中で合同実施 となると、皆さんの通う神戸高校はお父さんが同じで12歳違いです。これは兄弟ですね。

出場する各部の皆さん、明日はいつも以上に神戸高校を背負って試合することになります。その中でどれだけ自分の底力を出せるかが重要です。勝ちにこだわりながらも自分の力が出せるかどうかです。期待しています。

また、選手をその気にさせるのは応援の力です。全校生の思いを込めて応援しましょう。その思いはきっと届き、後押しする力になります。

それでは、明日を楽しみにしています。競技も応援もお兄ちゃんの底力を見せてくださいね。神高生、頑張り！

自治会長はこの日もとても明るい声で、選手をはじめ応援する全校生徒の背中を押してくれました。あいにく対面でなく校内放送を用いた壮行会となりましたが、その思いはいつもながら全校生徒に届いていますね。

続いて出場選手を代表しての挨拶は野球部キャプテン。当日への意気込みを力強く語ってくれたあとで、締め言葉はまさかの「さんざん、応援しちゃってください」。私の創立記念祭のときの開会挨拶に掛けてくれたのです。思わず笑いがこぼれてしまいました。言葉を重ねていただき、ありがとうございます。

さて、締めくくりは応援団長の出番です。いつも惚れ惚れするような、語尾の長いエールを披露してくれる団長。この日も熱を帯びた激励の声を聴かせて、ムードを高めてくれました。

○ 抜けるような青空のもとで

迎えた当日、神戸の空は快晴。もっとも開始時間の早い女子バレーボールの会場はグリーンアリーナ。観客席は兵庫高校の生徒と本校の生徒とでぎっしり埋まっていました。応援歌と太鼓にあわせ、皆でカーキ色のタオルを回したこと、忘れられない思い出になりますね。

その後は同会場での男子バレーボールや、男女のソフトテニス、そしてユニバー記念陸上競技場を使用してのサッカー、と順に応援してまわりました。どの会場も熱気満々で、見応えたっぷりでした。



男子バレーボール部、サッカー部が見事に勝利を収め、勢いに乗って迎えた全校応援の野球部決戦。勝った方が優勝です。兵庫高校の井上校長と互いに一喜一憂しながら、手に汗握って私も応援しました。

結果は惜しくも1点差で敗れ、兵庫高校の勝利。でも、母校を背負った部員の皆さんの思いと応援の勢いは負けていませんでした。本当にいい定期戦でした。

だからこそ閉会式の挨拶は未来を見据え、締めくくりにしました。

『部活動も勉強も努力しないと力つきません。でも、いつもその力を発揮できるとは限りません。今日、出し切れた人。おめでとう。ひとつ自信になりましたね。一方、出し切れなかった人。いい勉強になりましたね。次の機会には出し切りたいですね』と。次はきみの番だからね。

最後になりましたが、最初から最後まで全身全霊で全校生徒の神高魂を鼓舞し続けてくれた応援団の皆さんに心から感謝します。ありがとう。

